

# 「大川小学校旧校舎震災遺構調査・基本設計等業務公募型プロポーザル」の選定結果・審査講評

## 1 プロポーザルの概要

「石巻市震災復興基本計画」及び「石巻市震災伝承計画」に基づき、東日本大震災の記憶や教訓を後世に伝えるため、「石巻市震災遺構整備方針」により、大川小学校旧校舎の震災遺構化に向けた基本設計等業務についてプロポーザルを実施しました。

## 2 プレゼンテーション・ヒアリング

参加資格要件を満たす3者から提出された企画提案書等に基づき、下記の日程により選定委員会のプレゼンテーション・ヒアリングを実施しました。

○日時 平成30年2月25日（日）午前10時～午後0時5分

○場所 庁舎4階庁議室

## 3 選定結果

区分	整理番号	参加者名	評価点数 (合計1,890点)
優先交渉権者	201	AL・総合設計・西澤徹夫・オンサイト・構造計画設計共同企業体 代表者 株式会社AL建築設計事務所 代表取締役 堀井 義博	1,455点
次点候補者	203	UAPP・丹青社・復建技術コンサルタント・中田・ドーコン共同企業体 代表者 有限会社都市建築設計集団 取締役 手島 浩之	1,296点

## 4 評価項目

選定委員一人当たりの評価点数の合計は270点で、評価項目の配点は、次のとおりです。

- (1) 業務実施方針 30点
- (2) 全体 70点
- (3) 震災遺構整備 90点
- (4) 展示 80点

※選定委員7名の合計点は1,890点

## 5 審査講評

多くの尊い命が失われた現場として、その位置づけが極めて困難であるだけでなく、周辺地域が広く災害危険区域の指定を受け、将来的活用に多くの課題が存在するという意味で、本事業の難易度は並大抵のものではない。最終提案を行った3事業者の提案は、そうした困難に対して、技術者として真摯に向き合ったそれぞれレベルの高いものであった。

審査は、先行して行われた旧門脇小学校震災遺構調査・基本設計等業務と同様、審査会は、背景を異にする審査委員が、各案に関する評価を交換し合いながら、案の長所や問題点に関する理解を深めていくプロセスを何度も繰り返す形式で行った。案件の難しさを勘案して、採点は、各人の理解が深まった段階で、個別採点・集計・承認という丁寧なプロセスを踏むこととした。

201は、その取扱いが極めて難しい本事業の方針に対して、丁寧な読み解きで実施方針や敷地特性を理解している点が評価されたが、見学経路の一部再考が課題として挙げられた。202の力のあるメンバーによるデザイン的に考えられた提案には、審査委員も好意的な評価を示した。その一方で、鎮守の森と災害の記憶のゾーンをかなり象徴的に分けてしまう扱いや全体のコストなどについて懸念が出された。203は、比較的現実的な実施体制、校庭周りの素直な扱いなどが評価されたが、実施方針に対する理解や国際的発信力については評価を集めることが出来なかった。

結果、実施方針に対する理解が深いと評価された201の提案が、最高得点となり、203の提案が、現実的な実施体制などで、それに次ぐ得点を得た。これらを尊重し、201を優先交渉権者、203を次点として推すことを審査委員会として決定した。

優先交渉権者、次点の事業者を選定はしたが、冒頭にも記したように難しいテーマであるにもかかわらず各提案は、甲乙のつけがたい優れたものであった。これらを鑑み、審査委員会として、各事業者に対し深い謝辞を示すものである。

### 大川小学校旧校舎震災遺構調査・基本設計等業務プロポーザル選定委員会

委員長	東北大学大学院工学研究科・工学部 教授	小野田 泰明
委員	新潟県建築士会 常務理事	渡辺 斉
委員	東北大学災害科学国際研究所 准教授	佐藤 翔輔
委員	大川地区復興協議会 会長	大槻 幹夫
委員	大川小学校児童ご遺族	佐藤 敏郎
委員	大川小学校卒業生	永沼 悠斗
委員	石巻市河北総合支所長	日野 清司